

地球の宝庫を開く

鉍物資源と機器展

砂川 一郎

国際鉍物学連合の第7回総会と国際鉍床学連合の東京・京都會議が合同して開かれる IMA-IAGOD Meetings '70 の開催もいよいよ間近に迫ってきた。本誌185号ですでにご紹介したように 鉍物学や鉍床学関係の国際会議が日本で開かれるのはこれがはじめてのことである。また IMA と IAGOD の2つの国際連合が共催されることもいまだかつてなかったことである。そのため国内外にわたって IMA-IAGOD Meeting '70 に対する関心が高く、すでに550名をこえる登録がなされており、この調子でいくと出席者6~700名に達する大きな会議になりそうである。受理された論文数もすでに280編余に達している。

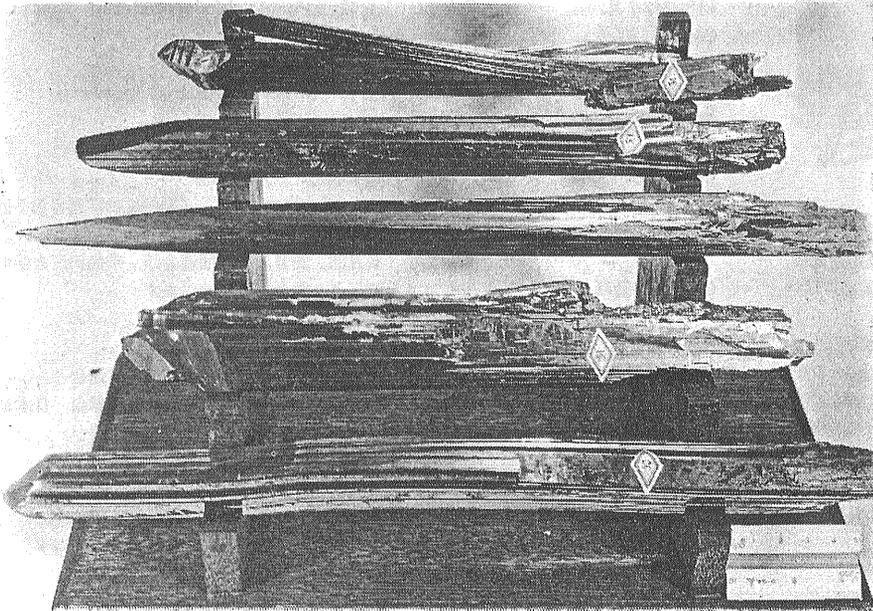
ところで IMA-IAGOD Meeting '70 とともに 鉍物や鉍床に関心のある人々にとって、どうしても見逃すことができない計画が目下着々と進められている。

「地球の宝庫を開く 鉍物資源と機器展」という名前の展示会である。

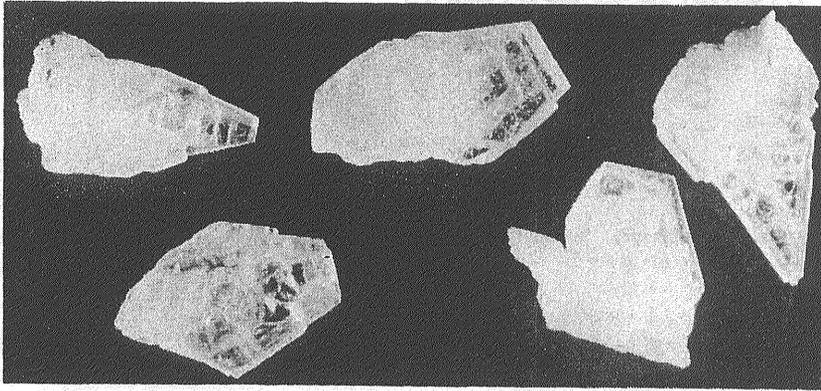
この展示会は IMA-IAGOD Meetings '70 の組織委員会とは独立ではあるが、密接な連携をもっている展示委員会で計画立案し、日本鉍業会が主催、日本鉍業協会、日本鉍山地質学会、日本岩石鉍物鉍床学会、日本鉍物学会が共催するもので、本会議と平行して8月28日から8月31日までの間、大手町の都立産業会館で開かれる。

本会議はこの会場から歩いて5分の距離にある経団連会館で8月28・29日の2日間開催されるので、会議の途中で展示会場をのぞく人も多いであろう。展示会の会期は、関心をもっている一般の多くの人々にみってもらうため、これよりも長くとり、もちろん無料で広く一般公開される。

展示会は都立産業会館3階の全フロアで開かれる。そのうち1/3ほどの床面積が特別展示室となり、残りの2/3ほどの面積は100コマほどに小分けされて、鉍物・結晶・鉍石・鉍床などの研究用機器類をはじめ、鉍床探査用の機械類など、国内外の多数のメーカーからの出品による機器展になる。X線回折装置、電子顕微鏡類、光学顕微鏡類、分析用機器類や物理探査、地化学探査、ボーリング装置など最新の機器類が展示されるであろう。これはこれなりに必見に値する。しかし特筆に値するのは、特別展示室の展示で、ここでは日本産の鉍物標本で世界に誇れるものがわが国ではじめて一堂にあつめら



輝 安 鉍
(Stibnite)
愛媛県市ノ川鉍山
(和田標本)



湯河原沸石 (Yugawaralite) 神奈川県湯河原温泉 (桜井標本)

れて公開されると同時に 国内外の鉱物資源の現状や資源を開発するためにいかに地道な努力が積みあげられているかなどを説明するためのパネルや地図が展示される。特別展示される鉱物標本の主体は 和田標本と桜井標本で このほかに秋田大学の鉱業博物館その他の貴重な標本の出品が予定されている。

和田標本は 地質調査所の初代所長であり日本の鉱物学の開祖であった和田維四郎氏が収集し これをもとに日本鉱物誌第1版を著したという由来のある標本で19世紀後半から 20世紀初頭にかけて 日本に産出した鉱物標本のうちすぐれたものを網らしている。20世紀初頭までの日本産鉱物標本の最も完全な収集であると共に現在では全く採集できなくなった貴重な大型の結晶標本をたくさん所有している点でも特徴的である。たとえば本誌表紙に紹介した市の川鉱山産輝安鉱の結晶標本の収集では 和田標本と肩を並べることのできる標本は世界中どこにもないであろうし 世界最大の水晶体の日本式双晶も持っている。

和田標本は三菱鉱業中央研究所に所蔵されており 震災にも戦災にも被害を蒙らず 戦後の米軍進駐からも守られ アメリカの収集家からの度々の購入希望(72億円と評価したそうである)にも応ぜず そのままの姿を完全に過去60年余維持してきた標本である。埼玉県与野市にある中央研究所から外にもちだされ 一般に公開されたことは今まで一度もない。今度はじめて特別の配慮で公開される運びとなったわけで 鉱物に関心をもつ人にとってわが国最高のきらびやかな標本類を直

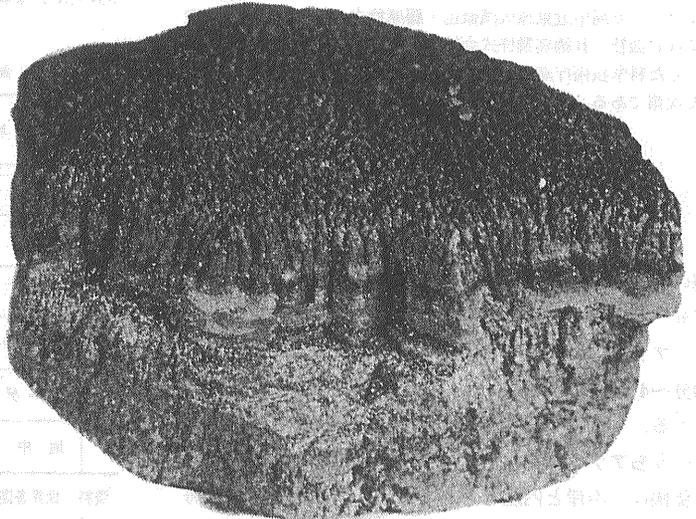
接みるまたとない好機会であろう。

和田標本が20世紀初頭の日本の鉱物標本の代表であるとなると 桜井標本は現代の日本産の鉱物標本の代表である。大型結晶こそ和田標本ほど多くはないが日本産鉱物の全種類を最も系統的に完璧に収集しているのはわが国では桜井標本以外にはない。日本では

じめて発見された新しい鉱物種27種をはじめ 日本に産する鉱物種は全て完璧に集められている。桜井標本もまた個人の収集で 桜井標本館に陳列されているとはいえ 一般に公開されているわけではない。一般の人がみるチャンスはきわめて少ないわけである。今回は新しい鉱物種をはじめ桜井標本中でも特に珍しい鉱物種を選んで展示されることになっている。

20世紀初頭と現代の両方を代表するし また美しい結晶標本と 学術的に珍しい 新種鉱物の標本とを代表する和田標本と桜井標本とが 一堂にあつまって一般公開されるチャンスは 今後 2度とあるとは思われない。日本産の鉱物に関心をもつ人々の必見をおすすめする次第である。

(筆者は鉱床部長)



毒石 (Todorokite) 北海道毒鉱山 (桜井標本)